

令和 6 年 7 月 1 7 日

令和 6 年千葉市教育委員会会議第 7 回定例会

[議案書]

千葉市教育委員会

報告事項（１）

令和５年度（令和６年度集計）体罰及びセクシュアル・ハラスメントに関する調査結果について

千葉市教育委員会では、令和５年度分の市立の小・中・中等教育・特別支援・高等学校の児童生徒及び教職員を対象とした体罰、セクシュアル・ハラスメントに関する調査結果を取りまとめましたので、お知らせします。

１ 調査の目的

本調査は、児童生徒と教職員との関わり合いの中で起こる体罰やセクシュアル・ハラスメントに関する実態を把握するとともに、具体的な対策を講じ、より良い学校環境をつくるために実施する。

２ 調査方法等

（１）調査対象者

市立の小・中・中等教育・特別支援・高等学校に在籍する児童生徒及び教職員（臨時・会計年度任用職員を含む）。

※小学校・特別支援学校は保護者も含む

（２）調査対象期間

令和５年４月１日～令和６年２月２９日

（３）実施方法

- ・アンケート調査とし、氏名は「無記名可」としている。
- ・今回の調査から、調査用紙の性別欄を設けないこととした。
- ・生命（いのち）の安全教育と文言の統一を図るため、「身体に触られた」を「嫌な触られ方をされた」に変更するなど、児童生徒用調査票の文言を一部見直した。
- ・教職員間におけるハラスメント調査において、「性的な話を言われ不快であった」「性的な関係を求められ不快であった」を統合し、「性的な話を言われた」という項目とした。
- ・教職員間におけるハラスメント調査において、新たに「妊娠、出産、育児休業等の取得に関して嫌みを言われた」という項目を追加した。
- ・モデル校２校（小学校１校・中学校１校）において、電子申請による回答を実施した。

（４）回収方法等

- ・全校種の児童生徒が自宅で回答し、提出する。回収については担任が関わらず、管理職が各教室を回って回収する。また、教育委員会へ郵送による提出も可能としている。
- ・教職員の回答については、管理職が回収する。また、教育委員会「スクールレスキュー」へ郵送による提出も可能としている。
- ・電子申請による回答では、「ちば電子申請サービス」を活用した。一旦、教育委員会が一括してデータを集約。その後、各学校へデータを返し、事実確認及び報告を依頼した。

3 調査結果等（※詳細は、別添資料参照）

(1) 体罰実態調査の結果

体罰と判断される行為 0件（前回調査1件）

(2) セクシュアル・ハラスメント等

ア 児童生徒・保護者

小学校5人（前回調査2人）、中学校・中等教育学校5人（前回調査10人）、
高等学校0人（前回調査0人）、特別支援学校0人（前回調査0人）

※調査結果を踏まえ児童生徒本人と面談をする等状況を確認したところ、教員から児童生徒に対するセクハラ及びセクハラ以外のハラスメントの具体的相談について、処分等にあたるものはなかった。

イ 教職員

小学校17人（前回調査24人）、中学校・中等教育学校16人（前回調査12人）、
高等学校3人（前回調査2人）、特別支援学校3人（前回調査4人）

※調査結果を踏まえ各学校において管理職等による聞き取りを行ったところ、処分等にあたるものはなかった。

4 今後の取組

(1) 各学校での取組

ア 「暴力（いじめ、体罰、言葉の暴力、性暴力等）のない安全・安心な学校づくり」に向けた職員の意識啓発などを行うことで、教職員の人権感覚、指導力の向上を図る。

イ 教職員の研修等の中でハラスメント指針やリーフレット等を活用することで、体罰及びハラスメント（セクハラ・パワハラ・マタハラ等）を未然に防ぐなどし、学校組織体制の強化を図る。

(2) 教育委員会での取組

ア 毎年4月を「生命（いのち）の安全教育月間」とし、子どもたちが暴力の加害者や被害者、傍観者にならないよう、全市立学校において子どもの権利や暴力から自分の心と体を守るための予防方法等について学ぶ機会を設ける。また、児童生徒の発達段階や学校現場の状況により適した実施方法になるように、適宜見直しを図っていく。

イ 教職員に対し、安全配慮義務、性暴力等防止に関する研修等を、外部講師を招聘して実施することで、行動の振り返りや新たな気づきの機会を与え、人権感覚を醸成する

ウ 児童生徒性暴力等防止対策検討委員会からの答申を受けて、「暴力のない安全・安心な学校づくり」を推進する。（子どもにこにこサポートの充実、死角点検の改善、ハラスメント防止リーフレット作成等）

エ 事案発生時の初期対応フローの学校への一層の周知を行うとともに、各機関との連携を図っていく。

オ 学校管理訪問を実施し、学校への啓発活動を行う。

5 その他

今回の調査結果については、市教育委員会ホームページに掲載する。

【URL】<http://www.city.chiba.jp/kyoiku/kyoikusomu/kyoikushokuin/index.html>

令和5年度(令和6年度集計)体罰及びセクシュアル・ハラスメントに関する調査結果について

児童生徒や教職員が調査票を学校に提出することに不安を感じる場合は、千葉市教育委員会へ郵送も可能としている。なお、郵送による提出数は、調査対象者数及び回答者数に含まれている。

1 調査対象者数

全調査対象者数 68,843人 全回答者数52,734人 回答率 76.6%

学 校 種		5年度計	小学校(107校)	中(中等)学校(54校)	高等学校(2校)	特別支援学校(3校)
児童生徒・保護者	調 査 対 象 者 数	68,843人	44,918人	22,393人	1,108人	424人
	回 答 者 数	52,734人	34,262人	17,285人	893人	294人
		76.6%	76.3%	77.2%	80.6%	69.3%

全調査対象者数 6,182人 全回答者数4,891人 回答率 79.1%

学 校 種		5年度計	小学校(107校)	中(中等)学校(54校)	高等学校(2校)	特別支援学校(3校)
教職員	調 査 対 象 者 数	6,182人	3,711人	1,996人	222人	253人
	回 答 者 数	4,891人	3,029人	1,588人	106人	168人
		79.1%	81.6%	79.6%	47.7%	66.4%

2 体罰等調査結果(児童生徒・保護者)

(1) 体罰と判断される行為等の件数

学 校 種		計		小学校		中(中等)学校		高等学校		特別支援学校	
分 類		5年度	4年度	5年度	4年度	5年度	4年度	5年度	4年度	5年度	4年度
体罰と判断される行為		0	(1)	0	(1)	0	(0)	0	(0)	0	(0)
場 面	授業中	0	(1)	0	(1)	0	(0)	0	(0)	0	(0)
	部活動中	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)
	その他(掃除中や休み時間など)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)
態 様	強く叩く、殴る	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)
	蹴る	0	(1)	0	(1)	0	(0)	0	(0)	0	(0)
	壁に押し付ける、転倒させる等	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)
	正座、直立等特定の姿勢を長時間保持	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)
	その他	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)

(2) 体罰以外と判断される行為等の件数

学 校 種		計		小学校		中(中等)学校		高等学校		特別支援学校	
体罰以外と判断される行為		5年度	4年度	5年度	4年度	5年度	4年度	5年度	4年度	5年度	4年度
① 不適切な行為 (不適切な指導・行き過ぎた指導など)	受けた	45	(55)	36	(43)	9	(11)	0	(1)	0	(0)
	見た	37	(85)	27	(62)	10	(19)	0	(4)	0	(0)
② 言葉の暴力(暴言等)	受けた	68	(128)	56	(80)	11	(46)	1	(2)	0	(0)
	見た	80	(113)	52	(81)	26	(29)	2	(3)	0	(0)
③ 指導の範囲内である行為	受けた	102	(45)	74	(31)	28	(12)	0	(2)	0	(0)
	見た	87	(83)	61	(65)	26	(18)	0	(0)	0	(0)
①～③の合計数	受けた	215	(228)	166	(154)	48	(69)	1	(5)	0	(0)
	見た	204	(281)	140	(208)	62	(66)	2	(7)	0	(0)
		419	(509)	306	(362)	110	(135)	3	(12)	0	(0)

3 セクシュアル・ハラスメント調査結果（児童生徒・保護者）

教職員から受けたセクシュアル・ハラスメントの分類		計		小学校		中（中等）学校		高等学校		特別支援学校	
		5年度	4年度	5年度	4年度	5年度	4年度	5年度	4年度	5年度	4年度
① 性的な話を言われた。 (授業に直接関連する内容は除く)	受けた	1	(2)	0	(0)	1	(2)	0	(0)	0	(0)
	見 た	0	(4)	0	(1)	0	(3)	0	(0)	0	(0)
② 嫌な触られ方をされた。	受けた	6	(6)	3	(1)	3	(5)	0	(0)	0	(0)
	見 た	7	(9)	3	(2)	4	(7)	0	(0)	0	(0)
③ 身体的特徴を話題にされた。	受けた	1	(3)	1	(0)	0	(3)	0	(0)	0	(0)
	見 た	0	(2)	0	(1)	0	(1)	0	(0)	0	(0)
④ 性的内容の電話・手紙・電子メール等 をもらった。	受けた	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)
	見 た	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)
⑤ その他	受けた	2	(1)	1	(1)	1	(0)	0	(0)	0	(0)
	見 た	4	(2)	4	(2)	0	(0)	0	(0)	0	(0)
①～⑤ の合計	受けた	10	(12)	5	(2)	5	(10)	0	(0)	0	(0)
	見 た	11	(17)	7	(6)	4	(11)	0	(0)	0	(0)
		21	(29)	12	(8)	9	(21)	0	(0)	0	(0)

4 教職員間におけるハラスメント調査結果

ハラスメントの分類		計		小学校		中（中等）学校		高等学校		特別支援学校	
		5年度	4年度	5年度	4年度	5年度	4年度	5年度	4年度	5年度	4年度
① 上司や同僚から厳しい叱責を受けた。	受けた	8	(11)	4	(8)	3	(2)	0	(1)	1	(0)
	見 た	13	(9)	5	(4)	4	(5)	2	(0)	2	(0)
② 上司や同僚から人格を否定するような 言動を受けた。	受けた	5	(19)	4	(12)	1	(5)	0	(0)	0	(2)
	見 た	3	(9)	1	(6)	2	(2)	0	(1)	0	(0)
③ 上司や同僚から無視された。	受けた	6	(4)	1	(0)	3	(3)	1	(1)	1	(0)
	見 た	3	(0)	1	(0)	2	(0)	0	(0)	0	(0)
④ 容姿・年齢・結婚等を話題にされた。	受けた	5	(1)	1	(1)	3	(0)	1	(0)	0	(0)
	見 た	2	(0)	2	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)
⑤ 嫌な触られ方をされた。	受けた	1	(2)	0	(0)	0	(2)	1	(0)	0	(0)
	見 た	0	(2)	0	(1)	0	(1)	0	(0)	0	(0)
⑥ 執拗に交際を迫られた。	受けた	1	(1)	1	(1)	0	(0)	0	(0)	0	(0)
	見 た	3	(2)	2	(2)	1	(0)	0	(0)	0	(0)
⑦ 性的な話を言われた。	受けた	1	(0)	1	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)
	見 た	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)
⑧ 性的内容の電話・手紙・電子メール等 をもらった。	受けた	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)
	見 た	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)
⑨ 妊娠、出産、育児休業等の取得に際し て嫌みを言われた	受けた	1	—	0	—	1	—	0	—	0	—
	見 た	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—
⑩ その他	受けた	11	(4)	5	(2)	5	(0)	0	(0)	1	(2)
	見 た	7	(5)	2	(5)	4	(0)	1	(0)	0	(0)
①～⑩ の合計	受けた	39	(42)	17	(24)	16	(12)	3	(2)	3	(4)
	見 た	31	(27)	13	(18)	13	(8)	3	(1)	2	(0)

5 調査を踏まえた今後の対応

(1) 各学校での取組

○ 教職員の人権感覚、指導力の向上

- ・ 職員会議や打合せ等において、通知等の最新情報を基に、「暴力（いじめ、体罰、言葉の暴力、性暴力等）のない安全・安心な学校づくり」に向けた職員の意識啓発を進める。
- ・ 不祥事防止のためのセルフチェックを年3回実施する。
- ・ 人権研修、コンプライアンス研修等を積極的に活用する。
性暴力事案発生時の初期対応、性暴力のない安全・安心な学校づくり、性暴力理解（学校における性暴力防止について）、こども基本法と子どもの権利について、リフカー研修、CAP研修 等
- ・ 教育活動を人権の視点で見つめ直し、人権感覚を磨くためのチェック項目をコンプライアンス通信を活用し、子どもの人権に対する感覚を養う。

○ 学校組織体制の強化

- ・ 教職員の連携強化のために、教職員の研修等の中でハラスメント指針やリーフレット等を活用することで、体罰及びハラスメント（セクハラ・パワハラ・マタハラ等）を未然に防ぐ。
- ・ 事案発生時の初期対応フローに基づき、報告・連絡・相談を迅速・的確に行うとともに組織での対応や指導等、校内支援体制の構築を図る。
- ・ 「子どもにここをサポート（児童生徒向け）」や「スクールレスキュー（職員向け）」等の相談窓口を周知し、児童生徒及び職員の悩み相談の充実を図る。

(2) 教育委員会の取組

- ・ 毎年4月を「生命（いのち）の安全教育月間」とし、子どもたちが暴力の加害者や被害者、傍観者にならないよう、全市立学校において子どもの権利や暴力から自分の心と体を守るための予防方法等について学ぶ機会を設ける。また、児童生徒の発達段階や学校現場の状況により適した実施方法になるように、適宜見直しを図っていく。
- ・ 教職員に対し、安全配慮義務、性暴力等防止に関する研修等を、外部講師を招聘して実施することで、行動の振り返りや新たな気づきの機会を与え、人権感覚を醸成する。
- ・ 児童生徒性暴力等防止対策検討委員会からの答申を受けて、「暴力のない安全・安心な学校づくり」を推進する。（子どもにここをサポートの充実、死角点検の改善、ハラスメント防止リーフレット作成等）
- ・ 事案発生時の初期対応フローの学校への一層の周知を行うとともに、各機関との連携を図っていく。
- ・ 学校管理訪問を実施し、学校への啓発活動を行う。

報告事項(2)

第69回千葉市小学校音楽発表会〔中央区・若葉区・緑区〕について

- 1 目 的 情操教育の一環として、他校の児童と日常の音楽学習の成果を相互鑑賞することにより、音楽学習への意欲・関心を高め、小学校音楽教育の振興と向上を図る。

2 実施概要

- (1) 日 時 令和6年6月19日(水) 午前 9時より12時まで
午後 1時より 4時まで
(開催時間は、会場により若干異なります)

- (2) 会 場 各会場

- (3) 参加校及び参加人数 52校 1,500名

	会 場	参 加 校
1	千葉市民会館 (午前) 10校	01 新宿 02 本町 03 寒川 04 登戸 05 院内 07 都 28 鶴沢 50 弁天 43 星久喜 35 川戸
2	若葉文化ホール (午前) 8校	17 坂月 31 白井 32 更科 39 小倉 51 桜木 71 千城台東 130 千城台わかば 131 千城台みらい
3	蘇我コミュニティ センター (午前) 9校	06 蘇我 15 大森 24 生浜 30 松ヶ丘 33 宮崎 56 仁戸名 65 大巖寺 107 生浜東
4	千葉市民会館 (午後) 8校	25 椎名 29 平山 108 泉谷 111 小谷 113 有吉 115 金沢 117 扇田 120 おゆみ野南
5	若葉文化ホール (午後) 9校	13 千城 14 若松 38 大宮 64 北貝塚 87 みつわ台北 93 みつわ台南 94 若松台 97 都賀の台 102 源
6	蘇我コミュニティ センター (午後) 8校	26 誉田 49 土気 88 誉田東 90 大木戸 103 越智 109 土気南 112 大椎 116 あすみが丘

3 内 容

- (1) 開会の言葉
- (2) 教育委員会挨拶
- (3) 講師紹介
- (4) 出演上の諸注意
- (5) 「千葉市子どもの歌」 斉唱
- (6) 演奏発表（感想発表）
- (7) 講評
- (8) 閉会の言葉

4 参加学年及び学校数（内訳）

参加学年	学校数
1・2・3年生	1校
3・4年生	2校
4年生	44校
4年生（特別支援学級合同）	5校

5 音楽発表会を終えて（運営委員会での成果と課題から）

- 中央区・若葉区・緑区は今年度初めて全会場ホール開催となり、参加児童全員がホールで音楽発表会を経験することができた。ホールで歌ったり演奏したりする中で、音楽に包まれるような体験を味わうことができた。
- 各校が工夫し、様々な曲や演奏スタイルがあり、音楽を通して大変よい交流活動になった。
- 全体合唱では、会場が一体となってよかった。
- 事前の音楽主任同士の共通理解、各学校での本番を想定しての動きの練習や担任の先生との連携がよくできていた。
- 音楽主任同士の事前の確認事項を、Google Classroomやドキュメント、学習システム内のフォルダで共有したので、保護者への連絡等、共通のものを提示することができた。
- 昨年度からの申し送りを受け、ホールとの打ち合わせは各会場で一括して同じ日に行くことができた。午前と午後で運営の打合せをしたり、役員全員で物品の保管場所を確認したりすることができて有効であったと思うので、今後に引き継ぎたい。
- 昨年度からの申し送りを受け、引率の手が足りない学校同士で協力して記録・撮影することができた。
- 感想発表は、事前に演奏校から提出された聴きどころを児童に指導することが多い（児童が演奏を聴いた直後に、その場で感想を述べることは難しい）。児童の率直な言葉ではない場合が多いことと、帰校時間のことを考えると、方法を検討する必要がある。
- 進行が早まり、出演が最後の方の学校の保護者が見られなかった、間に合わなかったということがあった。余裕をもって保護者への案内を出しておく必要がある。
- 運営の人手が足りない中ではあるが、引率の先生方にも協力していただきながら、休憩時間のトイレや通路の見守りの配置を計画に入れる必要がある。

報告事項（３）

令和６年度 第５１回千葉市小学校表現運動発表会（花見川区・稲毛区・美浜区の部）について

学校教育部保健体育課

- １ 趣旨 表現運動発表会は、学校体育の発表の場とし、児童の表現運動に対する興味・関心及び表現力を高めるとともに、近隣校との交流を深める中で、心身の健全な発達と児童相互の望ましい人間関係の育成を図る。

２ 実施概要について

- （１）日 時 令和６年６月１９日（水） １３時１５分～１５時００分
- （２）会 場 市内小学校体育館（１６会場） ※別紙参照
- （３）参加校等 参加校（花見川区・稲毛区・美浜区）：５５校 ※別紙参照
- （４）参加児童数 １，５６９人（３・４年）
- （５）その他 ブロックごとに会場校へ参集して実施し、発表会の様子をオンラインで参加校へ配信する。

３ 当日の日程

13:15 13:25 13:40 14:50 15:00

開会式	つどい	発 表 会	閉会式
-----	-----	-------	-----

※つどい・・・他校と交流を目的に一緒にダンスや自己紹介等をする。

４ 発表学年及び発表内容

発表学年	学校数
４年（１学級）	４７校
４年（２学級合同）	２校
３・４年（２学年合同）	１校
３年（１学級）	４校
３年（２学級合同）	１校

発表内容	学校数
海中たんけん	２０校
ジャングルたんけん	１６校
忍者	８校
クッキング	４校
自然	３校
その他	４校

５ 視察（学校教育部長・保健体育課長）

【高洲三小ブロック・さつきが丘小ブロック・真砂五小ブロック】 WBGT23℃

- ・両校の参加児童が生き生きと表現を楽しんでおり、充実した発表会であった。
- ・水分補給や休憩の時間を確保し、安全に配慮していた。

６ 参加した職員の事後アンケートより（成果と課題）

（１）成果

- ・最初は少し緊張していたが、つどいを行うことで緊張もほぐれ、楽しい雰囲気で行うことができた。他校の発表も真剣に見ている様子が見られた。
- ・事後アンケートでは、児童の様子について１６ブロック中１４ブロックで「かなり意欲的」と答えており、表現運動に親しむ様子が見られた。

（２）課題

- ・各学校１学級の参加であったため、出場する学年が全クラス出場できるようなブロックの編成の仕方ができるとよい。

７ 所見

表現運動発表会を開催することで、「表現運動」の学習の充実につながった。他校と発表を見合うことや「つどい」を通して、児童相互の交流を深めることができた。暑い時期の実施となるため、今後は熱中症への対策が一層必要となってくる。

1 ブロック編成

No	学校名	No	学校名
A	<u>都賀</u> 千草台 千草台東 轟町	I	検見川 <u>花園</u> 瑞穂
B	稲丘 小中台 稲浜 <u>稲毛</u>	J	◎畑 長作 <u>作新</u>
C	<u>緑町</u> 弥生 幸町三 幸町	K	真砂西 <u>真砂東</u> 磯辺
D	◎宮野木 <u>あやめ台</u> 草野 柏台	L	<u>幕張</u> 幕張東 上の台
E	横戸 <u>こてはし台</u> ◎横橋 ◎山王	M	<u>打瀬</u> 海浜打瀬 美浜打瀬
F	高洲四 <u>真砂五</u> 稲毛二 磯辺三	N	幕張西 幕張南 <u>西の谷</u>
G	高浜一 高浜海浜 高洲 <u>高洲三</u>	O	朝日ヶ丘 さつき東 <u>さつき西</u>
H	西小中台 <u>小中台南</u> 園生	P	花島 <u>花見川</u> ◎柏井

…会場校 ◎…借上げバスで移動(※) ※学校間の距離が徒歩で2km以上の場合が対象

2 児童、発表学級担任、体育主任の感想(抜粋)

(児童)

- ・何かになりきって表現するおもしろさが分かった。
- ・他の学校の友達の表現を見て、自分もまねしてみたいと思った。

(発表学級担任)

- ・体育が苦手な子も楽しく、生き生きと参加することができた。他校の児童の発表を見ることで、良い表現を見つけることができ、良い刺激になった。

(体育主任)

- ・体育主任同士で共通理解を図りながら、当日の運営を臨機応変に対応できた。

3 発表会の様子



令和6年教育委員会会議第7回定例会出席者(教育委員会室)

